

「日本八景」の一つに狩勝峠が選定されていることを、果してどの程度承知だろうか？日本三景は、人口に膾炙しているが、日本八景はあまり馴染みがないのが実態だろう。狩勝峠の展望所には「日本新八景狩勝峠」の標柱が建てられている。狩勝峠からの十勝平原の素晴らしさが八景の一つに選ばれている。

尚、表題の「只茫々」は、狩勝峠頂上の歌碑に刻まれている「十勝小唄」の歌詞の一部である。



(H15/6/1 山下撮影)

● 八景について

ある特定空間の絶景を八景として愛でる感覚は、中国から渡来したものである。そもそもは、11世紀北宋時代支那の瀟湘（しょうそう）地方で、宋迪（そうてき）が選定した瀟湘八景を嚆矢とする。日本では、慶長・元和の頃から人口に膾炙し始めた。最初の八景は、近江八景であり、主題を瀟湘八景に擬えて選定した。曰く、比良の暮雪、八橋の帰帆、石山の秋月、勢田の夕照、三井の晩鐘、堅田の落雁、栗津の晴嵐、唐崎の夜雨の八景である。

日本には、現在200を越える〇〇八景があるが、瀟湘八景を踏襲したもの、多少の変形型、全く本来の主題と関係なく名勝を選んだものにと大別できる。北海道には、室蘭八景、旭川八景、様似八景、小樽八区八景と共に朔東管内に知床八景がある。

知床八景とは、オロンコ岩、知床峠、カムイワッカ湯の滝、プユニ岬、知床五湖、オシンコシンの滝、フレペの滝、夕陽台である。

● 日本八景の選定

昭和2年4月、大阪毎日新聞と東京日日新聞の共同企画で「日本新八景の選定」が行われ、国内が大フィーバーになった。一説には当時の総人口を上回る応募数があったらしい。予め8景の主題は決められていた。審査委員には、谷崎潤一郎、泉鏡花、横山大観等の名前がある。選定されたのは、① 瀑布：華厳の滝（栃木県） ② 海岸：室戸岬（高知県） ③ 河川：木曾川（愛知県） ④ 湖沼：十和田湖（青森県） ⑤ 温泉：別府温泉（大分県） ⑥ 溪谷：上高地溪谷（長野県） ⑦ 山岳：雲仙温泉岳（長崎県）そして、⑧ 平原：狩勝峠（北海道十勝支）である。

● 狩勝峠の命名

明治29年北海道鉄道敷設法が制定され、石狩から十勝への鉄道建設コースのけって

に携わった北海道鉄道部長の田辺博士が、踏査中に峠に立ち、眼下に広がる十勝平野の絶景に思わず息を飲み、石狩と十勝から一字づつとって狩勝峠と名づけたと言う。

- 現在の狩勝峠からの眺めも、確かに絶景である。然しながら、日本八景に選ばれたのは、国鉄旧狩勝線の車窓からの眺めである。今は、眺めるべくもない。既に廃止された。

旧狩勝線は根室本線の最大の難所である狩勝トンネルが明治 35 年 5 月に開通したことにより、十勝へそして釧路へと鉄路が伸びていったのである。

然しながら、最大勾配 25/1000 という急勾配、最小曲率半径が 197m という S 字カーブの連続、狩勝及び新内トンネルの存在、加えて冬季における積雪・凍結等、機関士泣かせの峠であった。昭和 26 年には、急行まりも号の脱線転覆事故が起きた。(朔東から第 78 号で紹介したバツタ塚の近くにまりも号脱線転覆に関する案内板があった。)

為にかどうか、新線への付け替え工事が行われ、昭和 41 年(1966)9 月末に開通し、旧線は廃止され、新得～新内間は、実験線としての条件を兼ね備えていたので、競合脱線のメカニズム解明、橋梁のたわみ量測定等の実験を、昭和 54 年(1979)まで、行った。

- 往時を訪ねる旅

根室本線の旧狩勝線は、実験線としての使命を終えた後は、保安上の処置が為されたままで、静かな眠りについてしたが、最近、これらの近代化遺産を掘り起こそうとの運動がある。レンガ造りのアーチ橋や狩勝トンネル、石造の新内沢大築堤・新内トンネル・ホーム、当時の列車や重連で活躍した機関車などを見ることが出来るそうだ。小生は確認していないが、あるHPによると、サホロリゾートの向かいにあるウエスタンリゾートサホロ園内の旧新内駅構内に、かつて S L ホテルとなった S L とブルトレがある。

(参考：百科事典、各 HP、etc)